



2020年8月

コロナのお陰で生き延びる

公益財団法人 国際通貨研究所
名誉顧問 行天 豊雄

コロナウイルスはありとあらゆる所で猛威をふるっているが、やっと一つ「コロナウイルスのお陰で」と云えることが発生したようだ。コロナウイルスのお陰でEU(欧州共同体)が崩壊を免れたのだ。

3月にウイルスの感染が広がった時、欧州は大混乱に陥った。27の加盟国はお互いに相談もなく国境封鎖をし、医療器具を奪い合い、非難合戦を繰り返した。

10年前のリーマン・ショックの時もEUの中でギリシャのように金融力の弱い国は、EUからの援助の見返りに緊縮政策を迫られ、EU脱退の寸前まで追い込まれた苦い経験がある。コロナウイルスは欧州の運輸産業、観光産業に壊滅的打撃を与えた。その最大の被害国はイタリアである。イタリアのGDPはギリシャの10倍あり、独仏に次ぐEU第3の大国である。イタリアの破綻がEUに及ぼす影響はギリシャの比ではない。

1999年にEUで統一通貨のユーロが発足した当初から、EUの真の統合のためには二つのことが必要だというのは大方の合意するところだった。一つは、金利・為替という金融政策だけでなく、予算・租税・社会保障を含む財政政策と金融監督の統合であり、もう一つは、加盟国間の財政力の構造的な不均衡をスムーズに調整するメカニズムの創設だった。

しかし、ドイツやオランダ等の北部の保守的な国々とイタリア・スペイン・ギリシャ等南部のラテン系の国々の気質の違いは非常に大きく、真の統合に向けての前進は遅々としたものだった。コロナウイルスの感染が深刻な状況になっても、EUとして事態を抜本的に打開しなければならないという気運はなかなか生まれなかった。

ロック・ダウンでEU経済が今年9%縮小するという見通しが明らかになると、EUの指導者達も真剣にならざるをえなくなった。

7月半ばにブラッセルに集まったEU27カ国の首脳達は徹夜の交渉を続けて、遂に21日の明け方、歴史的な合意に到達した。

総額1兆8,000億ユーロのEU経済復興基金を作る。うち7,500億ユーロはコロナウイルス対策用で、3,900億ユーロはEU共同債発行で調達し、必要とする加盟国に返済

不要の贈与として使用できる。3,600 億ユーロは低利融資として使用される。

EU が巨額の共同債を発行し、調達した資金を加盟国へ贈与するというのは正に歴史的な政策変更であり、真の統合に向けての重要な一歩であることは明らかである。このようなことが起こりえたのは、幸か不幸か、コロナウイルスの脅威に追い込まれたドイツのメルケルとフランスのマクロンの二人の指導者の決断だった。二人はコロナウイルスのために EU を崩壊させられないこと、そしてそのためには独仏の首脳が揃って妥協しなければならないことを思い知らされたのである。

この決断が、長い目で見て、EU の世界的な競争力を高めるのか、損なってしまうのかまだ判らない。しかし、コロナウイルスとの付き合いを見ても、われわれ日本人が往々にして軽視しがちな、欧州人の生存のためのしぶとさを思い知らされる。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへ寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2020 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882, Facsimile: 81-3-3273-8051

〒103-0027 東京都中央区日本橋本 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話：03-3510-0882 (代) ファックス：03-3273-8051

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>